

## 鈴木商店と岩井商店のセルロイド事業と双日のメタノール事業

双日の化学品主力事業会社として、1998年に商業生産を開始したインドネシアのKMI社(PT.Kaltim Methaol Industri/双日の出資比率85%)がある。同国唯一のメタノール製造工場として、日本およびアジア各国に輸出し、同国の天然ガスの高付加価値化と経済発展に大きく貢献している代表的な事業といえる。実は、このメタノールの事業は、鈴木商店と岩井商店が三菱と兵庫県網干に設立した日本セルロイド人造絹糸(現・ダイセル)、そしてセルロイドと密接な関係がある。



インドネシアKMI社のメタノール製造プラント

セルロイドは、セルロース誘導体である硝酸セルロースから、樟脳を可塑剤として製造される熱可塑性樹脂であるが、硝酸セルロースが燃えやすいという弱点があった。セルロイドメーカーであったダイセルは、その難燃化の取組みとして、主要原料の硝酸セルロースを酢酸セルロースに転換する研究を進め、酢酸からの一貫生産体制を確立。セルロイドに代わるアセテートプラスチックを事業化する一方、酢酸が医薬品などさまざまな化学品原料となることから、化学品事業を発展させるとともに、酢酸の製法転換をしながらその製造能力を増強。1975年には当時の最新技術であったメタノール法酢酸技術を導入し、今日では国内唯一の酢酸メーカーとなっている。

双日がインドネシアでメタノールの製造に進出した際には、セルロイド事業を出発点として拡大成長し、化学プラントの建設と運営、そして同製品に知見のあるダイセルに支援を求めた。その後、同社も出資参画(5%)し、また、双日より供給されるメタノールはダイセル網干工場において酢酸の原料として使用されてきた。100年以上前の網干のセルロイド事業は、現在の双日にもつながっているといえる。

2011年には、ダイセルが保有する「日本のセルロイド工業の発祥を示す建物および関連資料」、すなわち鈴木商店、岩井商店時代の功績が、化学と化学技術に関する貴重な歴史資料であるとの理由で、公益社団法人日本化学会から化学遺産に認定された。



創業期に外国人技師の宿舎として建設された「ダイセル異人館」(ダイセル網干工場)



創業期に建設された石炭ボイラー(ダイセル網干工場)